

単元名：

「ひきざん」

(全 10 時間扱い中 第 1 時)

授業日時 2021 年 7 月 2 日 (金) 第 3 校時

授業学級 1 年東組

授業会場 1 年東組教室

授業者

指導者

## (1) 主眼 (授業の手立て &amp; ねらい)

(〇〇の子ども達が) 〇〇の場面で、〇〇を通して、〇〇を□□することができる/できるようになる。

初めてひきざんに触れる子どもたちが、ひきざんの「のこりはいくつ」の問題を考える場面で、絵から数えたり数字ブロックを使うことを通して、ひくという手順をふみ「のこりはいくつ」の問題に答えることができる。

## (2) 展開

	学習活動	予想される子どもの反応	「授業者の主な発問」・※留意点・【教材】	時間
導入	1. 前時の振り返り	「たしざん」 「計算カード 足し算カード」 「式かけるよ 書いていい？」 「新しいことひきざんでしょ」	「いままでは算数で何をやってきましたか」 「そうだね。足し算の計算をやってきたね。今日から新しいことをやります」	3
	2. 「のこりはいくつ」の問題を提示し考える	「中に何が入ってるの？」  「3つにきまつてる」 「さっき見えたから絶対そう」  「あつた！」	「ここに冷蔵庫があるね。冷蔵庫の中にプリンが 5 つあります。私はとってもおなかがすいていたので 2 つ食べてしまいました。」 ※プリンや冷蔵庫などを絵で示しながら話す。最初にいくつあるのか数えてもらったりする。プリンをとるときはなるべく中を見せないようにこっそり 「冷蔵庫のプリンののこりはいくつでしょう？」 「じゃあ、冷蔵庫を開けてみよう」 「みんなが言っていたように 3 つだったね」	8
	3. ひきざんという言葉と式を示す	「1つしか食べなければ 4 つ残る」 「3つ食べたら 2つしか残らない」 「ひきざんって言うんだよ」 「式にかけるよ」 「引き算まだやったことない」	・何問かプリンを使って問題を出す 「みんなが今やってくれた問題はこれから新しく始まるひきざんの問題です。」 「最初の問題を式に書いてみると $5-2=3$ で表すことができます。」 「5 ひく 2 は 3 のひくってどういうことだろうね」	6
	【学習問題】 のこりはいくつになるのだろう？			
	【学習課題】 絵やブロックから問題を考え、ひくことができるようになる			
展開	4. のこりはいくつの問題の練習をする	「教科書開いてもいい？」 「式も書ける 簡単」 「ブロック使ってみた」 「ノートに式書いてもいい？」 「ちょっと難しい どうやって動かせばいい？」	※問題文を書き出す(映す) 【ノート・プロジェクター】 「そしたら少し練習してみよう。数字ブロックを使ってもいいし、できる人は式を書いてみてもいいよ。絵をかいてもいいよ。どんなふう考えたか教えてね」	15

	5. 引き算の問題を解いてみて気づいたことを共有する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答えをすぐにいう</li> <li>・ 教えてあげる</li> </ul> <p>「ひくってとっちゃうってこと。たべたり，帰っちゃったりする」 「ひくと最初より小さくなる」</p>	<p>【教科書(p.50-51)・ノート】 「できたかな？確認してみよう」 ※ブロックを動かしている児童がいたら聞いてみる 「今日やったひきざんの問題で何か気が付いたこととかありますか？」</p>	8
終末	6. まとめ	「今日のひきざんは簡単だった」	「今日から引き算の学習にはいります。今日の問題は皆さん完璧でした。」	5

【本時の評価（評価する対象）】

- ・ ひきざんの問題にとる組むことができる
- ・ ひくことについて気付くことができる  
(ノート・発言・つぶやき)